

113 學年度第一學期 Eurasia 基金會 (from Asia) 國際講座
第七期「亞洲共同體：東亞學的構築與變容」系列講次 (2)
講題：東西の漢学交流から東アジア人文学の新たな道を考える

鄭吉雄

(2024. 09. 19)

要旨

講演者は、東アジアおよび欧米で数十年にわたり漢学 (Sinology) の研究及び教育に従事し、東アジアの伝統的な典籍や文献を精査する一方で、欧米の人文学的研究アプローチにも研究してきた。欧米の視点から西洋における漢学の研究及び東アジア人文学の発展の経緯や成果、そして課題についても多くの知見を得ている。本講座では、東アジアと欧米の漢学研究を考察し、長年の国際交流で得た経験と成果をシェアしたいと考えている。

1. 「東アジア」の形成背景

15世紀から17世紀にかけてのヨーロッパのルネサンスから東方への武力による植民地化に至るまで、東アジア各国の文明にはヨーロッパ大陸の要素が見られる。これを大きく4つの側面に分けることができる。(1)ルネサンスの人文精神とアジアの人文精神の融合、(2)産業革命の精神及びそれがもたらした物質文明を重視した発展、(3)科学主義の精神及びそれに基づいたグローバルな参画、(4)進化論的要素。

東アジア各国は、西洋の科学や政治思想を積極的に受け入れつつ、自国の文化的価値の主体性をできるかぎり維持しようとしてきた。20世紀から現在に至るまで、百年以上にわたる歴史の中で、東アジアの学术界はこの二つの軌道上で全力を尽くし、科学的な方法論において欧米と肩を並べることを目指すと同時に、古来の典籍や文史哲学の文化的精神をさらに発展させることを目指している。

2. 科学的な方法と漢学研究

科学的な方法と思想は、欧州文明が東アジアに与えた最も重要な影響の一つであり、ルネサンスや科学主義の興起、産業革命後の影響、ダーウィンの進化論、進化史観、実証主義、新實在論など、自然科学と人文学の間の参照、引用、区別に関する問題が含まれている。最も具体的な例として、16世紀に天文暦法が東アジアに伝わった後、明清時代には改暦が行われた。古くからの東アジア各国の「節氣」は太陽暦に基づいており、月の満ち欠

けを考慮して陰暦が使われ、2つの新月の間に閏年が加えられることで閏月が設定されていた。ヨーロッパではグレゴリオ暦 (i. e. 現在の公暦) は純粋な太陽暦であり、「閏年」の2月に1日が加えられ、月の満ち欠けは考慮されていなかった。日本では明朝が滅亡した後、中国の暦法を捨て、自国の暦を採用し、1872年にはグレゴリオ暦に改められた。一方、韓国は1962年にグレゴリオ暦を採用した。東アジアの文化は農耕社会に基づいており、陰陽暦を重視する傾向があった。天文暦法は欧州文明の一部の影響を反映しているに過ぎず、農暦を捨てることで消失した伝統的な社会習慣や文化については、今後の評価が待たれている。

3. 欧米と中国経典解釈の伝統

欧米の経典『聖書』は、歴史的な言語の違いから、注釈、語源、校訂などの研究手法が多く用いられ、その形式は中国の儒教経典研究方法に類似している。キリスト教には教皇派とプロテスタントによる『聖書』の異なる解釈が存在し、18世紀における解釈学の理論の発展に伴い、新しい視点がキリスト教『聖書』の解釈学にも影響を及ぼした。一方、中国の経典は、欧米の経典とは異なり、西周経典、諸子経典、道教経典、仏教経典、儒教経典などに分かれている。現代中国における古典解釈学の伝統の再構築では、20世紀後期から21世紀の初頭で、湯一介氏と黄俊傑氏が巨擘として活躍した。彼らは主に欧州の解釈学を取り入れつつ、中国古典の解釈の伝統に適する方法論を抽出しようと試みた。

4. 結び

欧州文明が東アジアの暦法に与えた影響を通じて、科学の視点からさまざまな学問が東アジア文化や文明の発展に深い影響を及ぼしていることが観察される。古典解釈学の伝統は歴史が長く、中国と西洋とどちらが優れているかについては明確な結論を出すのは難しい。そのため、東西の古典解釈の伝統に存在するギャップを埋めることが必要であり、真の理論的対話を促進することが重要である。

中国語要旨・まとめ 徐興慶
日本語翻訳 陳順益
2024. 09. 20